

【高知県】

現在の景気：緩やかな持ち直し。

3か月程度の見通し：円高の修正、タイの洪水被害の緩和、震災復興需要の本格化、海外経済の成長率の高まりなどを背景に、緩やかに持ち直すとみられている。

個人消費：底固く推移。2月の百貨店販売は、衣料品などが堅調であったことから、前年比0.6%増加。スーパー販売は、各社ばらつきがあるものの、食料品の好調などから、前年比2.0%増加。乗用車販売（軽含む）は、低燃費車を中心とした新車投入効果、エコカー補助金制度の復活から、普通自動車が前年比36.8%増加、小型乗用車が32.7%増加、軽乗用車が41.1%増加し、全体では前年比37.4%増加。

住宅建築：持ち直しの動き。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比9.2%減少、分譲住宅が24.0%減少したものの、大型物件の着工から貸家が170.0%増加し、全体では前年比29.1%増加。

設備投資：低水準。3月の四銀キャピタルの景況アンケートによると、設備投資の目的は、営業力強化に向けた「維持・補修・更新」がトップ、次いで「生産・販売力の拡充」、「合理化・省力化」の順。「何らかの設備投資をした・する」との企業割合は、1-6月期が39%（うち新規16%）、7-12月期の見通しが35%（うち新規14%）と低水準。新規設備についても慎重姿勢が続く。

公共工事：持ち直しの動き。2月の公共工事請負額は、国、その他の公共団体が減少したものの、県、市町村が増加し、全体では前年比2.6%増加。件数は前年比21.8%減少。

輸出：減少。2月の県内通関輸出額は、船舶が減少し、全体では前年比2.6%減少。

生産活動：持ち直しの動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比5.7%上昇し83.4。原指数は前年比1.7%低下。機械が前年比42.0%上昇したものの、電気機械が23.1%低下、パルプ・紙・紙加工品工業が16.8%低下。

観光：弱含み。2月の主要観光施設利用実績は、厳寒の影響から、前年比11.2%減少。高知市内の主要ホテル・旅館（5社）の宿泊者数は前年比0.7%減少。

雇用情勢：ほぼ横這い。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.62倍。高知が0.70倍、須崎が0.70倍、四万十が0.71倍、安芸が0.70倍、いのが0.55倍。

（トピックス）

- 3月9日、ご当地アイスグランプリ（千葉市幕張メッセ）で、安芸グループふぁーむ（安芸市）の「焼きナスのアイス」が、「最高金賞」と「優秀仰天力賞」をダブルで受賞。
- 3月22日、国土交通省が発表した県の1月1日時点の公示地価は、住宅地や商業地など全用途平均の下落率が過去最大の8.9%と17年連続で下落。2年連続で全国最大の下落率。上昇した地点は10年連続でゼロ。
- 3月23日、県の第2期産業振興計画を協議するフォローアップ委員会が高知市内のホテルで開催され、最終案を承認。県外への移輸出額（2005年＝7,155億円）を10年後に1,300億円増やすことなどの新計画を4月から実行。

< 主要産業の動向 ー高知県ー >

製紙: 2月の家庭紙（ティッシュ、トイレットペーパー、タオル用紙、その他衛生紙）の生産量は前年比 6.1%増加、出荷量は 7.0%増加、出荷額は 8.0%増加。ティッシュペーパーの生産量は前年比 0.5%減少、出荷量は 0.2%減少、出荷額は 6.9%増加。トイレットペーパーの生産量は前年比 9.6%増加、出荷量は 1.2%減少、出荷額は 1.5%減少。タオル用紙の生産量は前年比 16.7%減少、出荷量、出荷額は横這い。その他衛生紙の生産量は前年比 8.8%増加、出荷量は 11.8%増加、出荷額は 9.9%増加。

園芸野菜: 2月の野菜（青果物販売額のシェア 91.8%）と果実の出荷量は前年比 4.2%減少、販売額は単価の上昇から 4.8%増加。販売額の内訳は、野菜が前年比 7.8%増加、果実が 4.0%増加。単価は、野菜が前年比 18.6%上昇、果実が 16.8%低下。